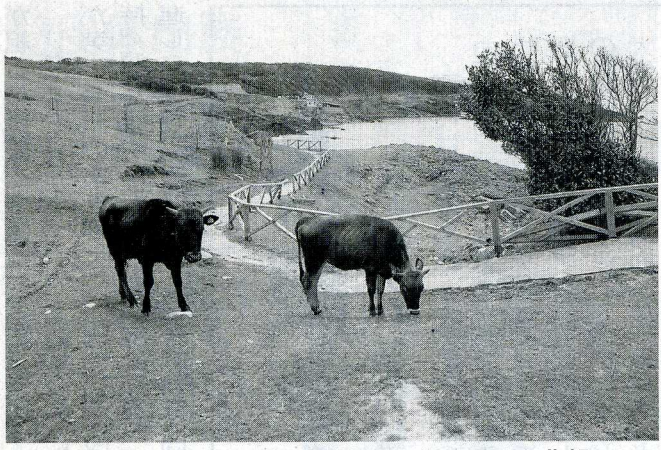


トルコ原発 三菱重名乗り

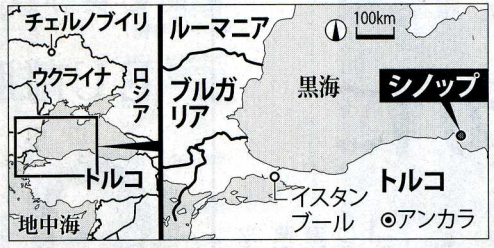
アレバと連合先発の東芝に挑む

トルコが計画する原子力発電所の建設を巡り、三菱重工業と仏原子力大手アレバの連合が受注競争に参入したことが23日分かった。トルコの原発は、東芝が一時優先交渉権を得ていたが、原発運営で参加予定だった東京電力が福島第1原発の事故を受け撤退し、交渉が停滞。韓国や中国などが追い上げるなか、三菱重工なども参戦することで競争はさらに激しくなりそうだ。【高橋慶浩 大久保陽二】

三菱重工とアレバは、企業の「アトメア」を、トルコに「アトメア1」を新興国向け中型炉を開発。07年に設立。独自開発の「PWR」型炉を計画する。トルコは、黒海沿岸のシノップに4基の案を示した。同様の案を示した。トルコの計画は、黒海沿岸のシノップに4



原発建設予定地の岬で草をはむ牛＝トルコ北部シノップで12年4月21日、花岡洋二撮影



基程度を建設するもので、建設費だけでも200億(1兆7600億円)規模とされる。当初は韓国勢が有力だったが、価格面などで折り合わず撤退し、10年12月に東芝が優先交渉権を得た。しかし、翌年の東日本大震災で状況は一変。東電が撤退しただけでなく、原発の型式も一度合意した沸騰水型炉(BWR)が福島第1原発と同じ型であるためトルコ側が拒否。東芝は子会社の米ウェスチングハウス(WH)製の改良型加圧水型炉(APWR)で提案し直すなど時間も要した。その間に韓国や中国、カナダが名乗りをあげ、さらに三菱重工・アレバ連合が加わった。

日本勢同士が争う格好になった背景には、日本市場の先行きが見通せないなか、新興国など海外展開に活路を見いだしたい思惑がぶ

Keyword

原発の輸出

中国やインドなどの新興国は経済成長に伴う電力需要が高まっており、比較的低コストな原発への期待が高い。このため、フランス、韓国などが国を挙げて原発の輸出攻勢をかけている。

日本政府も00年代半ばから輸出を後押しする体制を取り始め、民主党政権下でも成長戦略の一環に掲げた。しかし、11年3月の東京電力福島第1原発事故後、国内では新設どころか休止原発の再稼働も困難になっている。輸出についても、韓国のような挙国体制はとれていない。それでも東芝、日立製作所、三菱重工業の原発メーカー3社は海外案件獲得交渉を継続。日立が昨年11月、英国の原発事業会社を買収し同国での新規建設に乗り出すなどの動きもある。

【ムンバイ共同】日立製作所は23日、インド中部チャッティスガル州の発電所で新設予定の80万キロワットの石炭火力発電所向け蒸気タービン発電機2基を受注した、と発表した。

インド国営火力発電公社と日立の現地協力企業が進めるプロジェクトで、2016年にも運転を開始する。受注額は明らかにしていない。

日本の原発メーカーの海外案件の動向

メーカー	三菱重工	HITACHI	TOSHIBA
	この星に、たしかな未来を	Inspire the Next	
東日本大震災後の受注を巡る主な動き	東芝やトルコにアレバと共同開発した「アトメア1」を売り込む。ロシア勢と打ち	英国原発事業会社を買収。同国に4～6基の建設予定。アトメアでは受注が過半数を占める。韓国に共同開発した「アトメア1」を売り込む。ロシア勢と打ち	フィンランドの競争激化。チェコと交渉中。今年中に受注可能。韓国勢との競争激化

変。東電が撤退しただけでなく、原発の型式も一度合意した沸騰水型炉(BWR)が福島第1原発と同じ型であるためトルコ側が拒否。東芝は子会社の米ウェスチングハウス(WH)製の改良型加圧水型炉(APWR)で提案し直すなど時間も要した。その間に韓国や中国、カナダが名乗りをあげ、さらに三菱重工・アレバ連合が加わった。

日本勢同士が争う格好になった背景には、日本市場の先行きが見通せないなか、新興国など海外展開に活路を見いだしたい思惑がぶ

現地協力企業はオリッサ州で計画中の火力発電所の優先交渉権を得ており、今後正式に決まれば、日立はさらに2基のタービン発電機を受注する見通し。